

ナルベイン注 2mg
ナルベイン注 20mg

【この薬は？】

販売名	ナルベイン注 2mg Naruvein Injection 2mg	ナルベイン注 20mg Naruvein Injection 20mg
一般名	ヒドロモルフォン塩酸塩 Hydromorphone Hydrochloride	
含有量 (1アンプル中)	ヒドロモルフォン塩酸塩 2.3mg/1mL (ヒドロモルフォンとして 2mg/1mL)	ヒドロモルフォン塩酸塩 22.6mg/2mL (ヒドロモルフォンとして 20mg/2mL)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、がん疼痛治療用注射剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、痛みを伝える神経組織や痛みの中枢に働きかけ、痛みをやわらげます。
- ・次の目的で医療機関において使用されます。

中等度から高度の疼痛を伴う各種がんにおける鎮痛

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・重篤な呼吸抑制のある人
- ・気管支喘息の発作をおこしている人
- ・慢性肺疾患に続発する心不全の人
- ・けいれん状態（てんかん重積発作、破傷風、ストリキニーネ中毒）にある人
- ・麻痺性イレウスの人
- ・急性アルコール中毒の人
- ・ナルベイン注に含まれる成分やアヘンアルカロイド（モルヒネ、オキシコドン、コデインなど）に対する過敏症の人
- ・出血性大腸炎の人
- ・ナルメフェン（セリンクロ）を使用中または使用中止後1週間以内の人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・細菌性下痢のある人
- ・心臓に障害のある人、または低血圧の人
- ・呼吸機能に障害のある人
- ・脳に器質的な障害のある人
- ・ショック状態にある人
- ・代謝性アシドーシス（重篤な代謝の異常により、血液が酸性に傾くこと）のある人
- ・甲状腺機能低下症（粘液水腫など）の人
- ・副腎皮質機能低下症（アジソン病など）の人
- ・薬物依存・アルコール依存のある人、または過去にこれらを経験したことがある人
- ・衰弱している人
- ・前立腺肥大による排尿障害、尿道狭窄（にょうどうきょうさく：尿道が狭くなって、尿が通りにくくなった状態）のある人、または尿路手術術後の人
- ・器質的幽門狭窄（きしつてきゅうもんきょうさく：胃の出口が狭くなって、食べたものが通りにくくなった状態）のある人、または最近消化管手術を行った人
- ・過去にけいれんをおこしたことがある人
- ・胆のうに障害のある人、胆石症またはすい炎の人
- ・腸に重篤な炎症性疾患がある人
- ・腎臓に障害がある人
- ・肝臓に障害がある人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用をしてはいけない薬 [ナルメフェン（セリンクロ）（ただし、緊急事態により使用する場合を除く）] や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

- ・この薬は注射薬です。
- ・使用量、使用方法は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、持続静脈内または持続皮下投与されます。
- ・通常、成人に使用する量は1日0.5～25mgです。
- ・初めてオピオイド鎮痛剤を使用する人は、1日0.5～1.0mgから開始します。
注) オピオイド鎮痛剤：ヒドロモルフォン、モルヒネ、フェンタニル、オキシコドンなど
- ・他のオピオイド鎮痛剤からこの薬に変更する場合には、これまで使用していたオピオイド鎮痛剤の1日用量に応じて使用量が決定されます。
- ・フェンタニル貼付剤からこの薬に変更する場合には、フェンタニル貼付剤をはがしても17時間以上は体内に薬が残ることから、はがしてすぐにこの薬を使用するのではなく、しばらく時間をあけてからこの薬が開始されます。
- ・副作用などによりこの薬を減量する場合やこの薬を中止する場合には、徐々に減量されます。
- ・痛みが強くなったときや、突発性の痛みが出たときに、医師の指示する量を追加で使用することができます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬を使用するにあたっては具体的な使用方法、使用時の注意点、保管方法などを十分理解できるまで説明を受けてください。
- ・この薬を続けて使用していると、薬をたくさん使用したいとか、薬がないといられない気持ちになるなど薬物依存の症状があらわれる可能性があります。このような症状があらわれたら、医師に連絡してください。また、この薬の量を急激に減らしたり、中止したりすることで、あくび、くしゃみ、涙が流れる、発汗、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、散瞳、頭痛、不眠、不安、せん妄（軽度の意識混濁、興奮状態、幻覚、妄想）、手足の震え、全身の筋肉・関節痛、息苦しいなどの退薬症候があらわれる可能性があるため、この薬を中止する場合には、徐々に減量されます。
- ・眠くなったり、めまいがおこったりすることがあるので、自動車の運転などの危険を伴う機械の操作はしないでください。
- ・この薬を使用する場合には、便秘や吐き気・嘔吐が副作用としてあらわれることがあるので、その対策として便秘薬や吐き気止めの薬を併用することがあります。
- ・通常とは異なる強い眠気があらわれた場合は、過量投与の可能性があるので、ただちに医師に連絡してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳中の方は、授乳を避けてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
依存性 いぞんせい	ある薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ない、手足のふるえ、不眠、発汗、幻覚
呼吸抑制 こきゅうよくせい	呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる
意識障害 いしきしょうがい	意識の低下、意識の消失
イレウス（麻痺性イレウスを含む） イレウス（まひせいイレウスをふくむ）	便やおならが出にくい、吐き気、嘔吐、お腹が張る
中毒性巨大結腸 ちゅうどくせいきょだいけつちょう	発熱、お腹が張る、激しい腹痛、下痢、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色）

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、発汗
頭部	ある薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ない、不眠、幻覚、意識の低下、意識の消失
口や喉	吐き気、嘔吐
胸部	呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる
腹部	お腹が張る、腹痛、激しい腹痛
手・足	手足のふるえ
便	下痢、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色）、便やおならが出にくい

【この薬の形は？】

販売名	ナルベイン注 2mg	ナルベイン注 20mg
性状	無色～微黄褐色澄明の液	

【この薬に含まれているのは？】

販売名	ナルベイン注 2mg	ナルベイン注 20mg
有効成分	ヒドロモルフォン塩酸塩	
添加物	塩化ナトリウム、クエン酸ナトリウム水和物、クエン酸水和物、pH 調節剤	

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光を避けて室温（1～30℃）で保存してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・この薬を他人に渡すことは、法律で禁じられています。
- ・使わずに残った薬は、病院または薬局に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：第一三共プロファーマ株式会社

販売会社： 第一三共株式会社 (<http://www.daiichisankyo.co.jp>)

製品情報センター

電話：0120-066-132（がん・医療用麻薬専用）

受付時間：9時00分～17時30分

（土、日、祝祭日、当社休日を除く）